

どの教科でも新聞を使った授業は可能です。しかし、あえて新聞を副教材として利用する必要はあるのだろうか、という考えの人もいるでしょう。新聞のよさは「生きた（副）教材である」ということです。記事が新鮮で、生き生きとしていることと、生きた今の現実を伝えていることにあります。新聞をしっかりと読む大人に育てるためにも、ぜひ新聞を活用してみしてほしいです。

ところで、新聞の本文の活字はかつて、縦線を太く横線を細く書く「明朝体」という字体でしたが、コンピューターでの紙面づくりになってから各社とも独自の字体を使っています。見出しの大きな文字には明朝体がよく使われています。また、明朝体は「うろこ」といって文字の線の末端につく三角形の飾りがあります。

他の代表的な字体にゴシック体があります。線の幅が一樣に肉太でうろこのない字体です。

白抜き文字などの文字修飾も説明しましょう。

白抜き文字：地紋や墨（黒）の地色から文字の部分の白く抜くこと。この抜いた文字は肉太のゴシック体を使うことが多い。

袋文字：文字の輪郭だけを実線で囲み、文字の中は白く抜いたり点描にする。

影付き：文字に影のように黒い部分を付け、見出しを立体的に見せる、など。

図画工作、美術の授業では以下のように活用できるのではないのでしょうか。

- ①見出しや広告などから明朝体・ゴシック体など様々な字体の文字を1字ずつ切り抜いてスケッチブックに貼り、その文字の特徴などを書こう。
- ②黒の地色に白く抜いた見出しはどんな雰囲気（印象）を持つだろうか。白抜き見出しの記事をいくつか読んで考えよう。
- ③横見出しを一つ切り抜き画用紙などに貼り、別の字体にしたり地紋や飾りをつけたりして、別の印象を持つ見出しにしてみよう。
- ④ある横見出しの文字に模様などを付け、ある季節（春・夏・秋・冬・新年）らしい見出しにしてみよう。〈例〉文字に雪を積もらせたり、つららをつけたりして冬を表す。
- ⑤マンガののちゃんに色を着けて、季節感を出してみよう。
- ⑥環境に関する新聞記事や見出しをうまく使って、自然保護、温暖化防止などのポスターを作ってみる。

（鈴木伸男・全国新聞教育研究協議会顧問）